

ブラジル
アマパ・イニシアティブ
現地からのお便り

2015年10月
コンサベーション・インターナショナル

保護地域をよりよく管理していくための広報ネットワークの支援

効果的な広報活動を行うことは、知識を伝え、参加型のプロセスを築いていくために重要です。そのため、アマパ州の保護地域管理に貢献できる広報計画作りを目指しています。

この度、アマパ州政府の事務局スタッフが変わりました。それに伴い、保護地域の調整を行う役割がアマパ州環境局からアマパ森林研究所に移りました。そのため、広報計画作りのために、新しいチームとの技術的なミーティングを開く必要があります。今年11月から12月の間に広報計画作りとその実施を手伝ってくれる専門家を雇い、来年4月までに作業を終える予定です。

森林管理とアグロエコロジープログラムの支援

生産的な活動は、コミュニティが社会的、経済的に発展していくために欠かすことができません。これらの活動が持続可能な形で進められることは、生態系のバランスを守り、人々の幸せを実現するために重要です。そのため、私たちは次のような活動を進めてきました。

アンディローバ (*Carapa guianensis*) の木を使った製品作りのトレーニング

8月23～25日に、アマパ州有林とアマパ国有林の内外に住む「アラグアリ川農業抽出協会」に所属する20人がアンディローバの木を使った製品を作るトレーニングに参加しました。

このトレーニングでは、香油、石けん、ろうそくなど、コミュニティが作るアンディローバを使った製品に付加価値をつける優れた方法を示すことによって、森林製品が持続可能な形で使われることを目指しています。地域の資源と低コストで手に入る技術や機材を使って作ることができる代替的な生計手段の情報を提供しているのです。



アンディローバを使った製品を作るトレーニングの様子（写真：Gracinete Marinho/ Renascer Association）

アグロエコロジーについての2回のトレーニング

私たちは9月21日から23日にかけて、アマパ州のセラドナビオという町とアマパ国有林とアマパ州有林内に住む40家族に向けて、アグロエコロジーを実践した持続可能な製品作りと食料安全についての2回のトレーニングを行いました。その目的は、持続可能な生産プロセスの利点と課題を示し、コミュニティの理解を深めていくことです。



アグロエコロジーを実践した持続可能な製品作りについてのトレーニングの参加者。左) サラドナビオのコミュニティ、右) アマパ国有林とアマパ州有林のコミュニティ。(写真: Simone Araújo/Amapá Forest Institute)

トレーニングでは、アグロエコロジーの考え方、政策、生産に当たっての課題と利点、アグロエコロジーを使った食品と栄養の安全性、経済的な実行可能性、アグロエコロジーを実践した庭園の計画などを伝えました。コミュニティの人々の理解を高めるために、ビデオやグループワークを活用しました。トレーニングでの提案を受けて、サラドナビオのコミュニティと、アマパ国有林とアマパ州有林のコミュニティがそれぞれの理解に基づいて、アグロエコロジーの考え方を短い文章で整理しました。

11月からは、有機の堆肥、生物肥料、害虫の駆除、アグロエコロジーによる庭造りなどの実践的な活動を行います。

木材の密度の測定と廃材についてのワークショップ

アマパ国有林とアマパ州有林を取り囲むセラドナビオという町で、森林の多様な使用についてのパイロット活動を行っています。コミュニティの力を高めるために、研修やワークショップ、意見交換などのいくつかの活動が計画されています。7月27日に、木材の密度の測定と廃材についてのワークショップを開催し、コミュニティから15人が参加しました。



アマパ国有林とアマパ州有林を取り囲むセラドナビオ町でのワークショップの様子（写真：Adriana Luz/Amapá Forest Institute）

このトレーニングは、コミュニティの人々に木材の量を計算するやさしい方法を教えるために、とても実りのあるものでした。しかし、参加者からは、今回学んだ知識をより確かなものにするためにはさらなるトレーニングが必要との声が聞かれました。そのため、2016年の第一四半期に次のトレーニングを行います。

持続可能な森林管理についての経験の共有

成功例を共有することは、似た活動を始めたいまたは強化したいと思っている人々の能力を高めるために有効な方法です。そのため私たちは、セラドナビオとアマパ国有林から17人、持続可能な森林管理プロジェクトを行っているタパジヨス国有林とアマパ森林研究所の技術者など5人が参加した、経験共有の場を持ちました。

地元コミュニティの組織によるタパジヨス国有林での活動は、熱帯林における木材と非木材製品の管理に関する国内的そして国際的な成功例と考えられています。



タパジヨス国有林での持続可能な森林管理に関する意見交換の参加者（写真：Sandro Carvalho/Amapá Forest Institute）

8月8～13日の6日間に、タパジヨス国有林の共同組合の人々が、国有林の中での持続可能な森林管理についての経験を共有しました。国有林内で持続可能な森林管理を行うコミュニティへの訪問、共同組合による発表、持続可能な森林管理に関する理論と実践、森林及び非森林製品の取引やマーケティングについてのレクチャーなどの活動がなされました。

この活動は、コミュニティの人々やアマパ森林研究所の技術者から高く評価されました。なぜなら、森林管理の長所と課題が実際的でやさしい言葉で紹介されたからです。

最後に

このプロジェクトは、スケジュールに沿って、コミュニティの積極的な参加を得て進められています。私たちはこのプロジェクトが、生態系と自然の資源の維持を通して人々の幸せを促す政策を作り、実施するという目的に向かっていていると考えています。

このプロジェクトをきっかけに、アマパ州政府は、このプロジェクトで始まった広範囲に及ぶ様々な活動を推進するプログラムを作っていきます。それによって、保護地域の内外に住む多くの人々に影響を与えることができます。この新しいプログラムは、「アマパ州森林ガバナンス」と呼ばれ、主に森林管理とアグロエコロジーを実践した森林生産の活動からなります。このプログラムを作っていくために、政府は市民社会と2回のミーティングを計画しています。この動きは、私たちのプロジェクトの成功を示すよい指標だと考えています。「空気をはぐくむ森」プロジェクトは、アマパ州の保護地域を強化していく上で重要な成果を生み出しているのです。